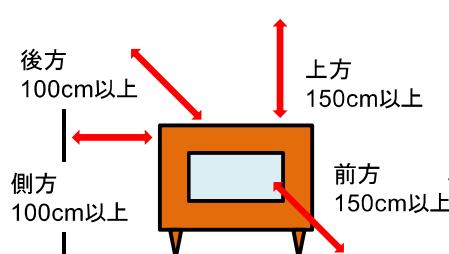


法律での規定(火災予防関連)

関連法規

ストーブの設置等については、消防法関連法規と建築基準法関連法規で規定があります。日本の法規では薪ストーブ、あるいはペレットストーブに特定されたものはありませんが、最も該当する規定について紹介します。

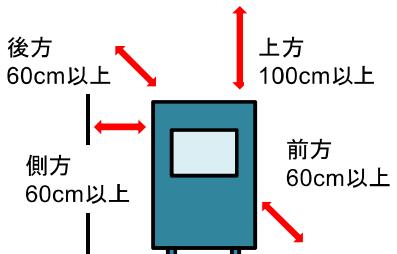
(1)薪ストーブの離隔距離



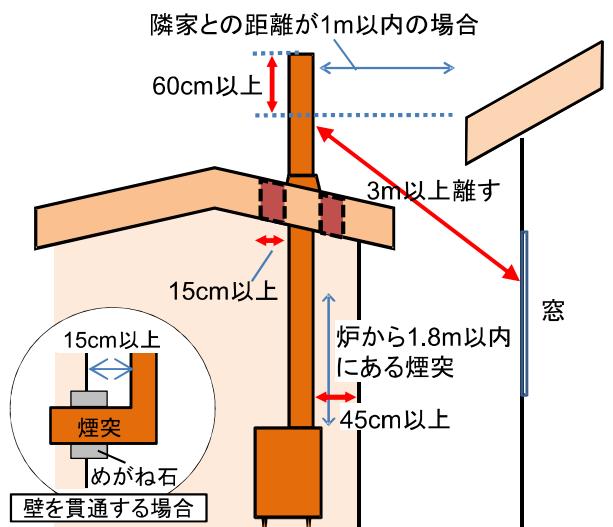
※離隔距離を短縮するには…

ストーブの周りをレンガなどで囲むと、離隔距離を縮められるよ！

(2)ペレットストーブの離隔距離



(3)煙突の設置例



関連法規一覧

	法令名	条項番号
消防法 関連法規	消防法	第9条
	消防法施行令	第5条
	総務省令24号	第3条、第4条、第5条
	消防庁告示1号	第2、第3
建築 基準法 関連法規	火災予防条例	(東京都の場合) 第3条1項17号、第5条
	建築基準法	第35条の2
	建築基準法施行令	第128条3の2、4 第115条、第129条
	国土交通省告示225号	第2

図の参照元および該当区分

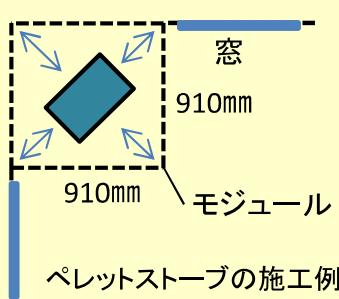
- (1) 消防法関連法規の固定式ストーブ（液体・気体燃料以外）
- (2) 消防法関連法規の温風暖房機（液体・気体燃料以外）
- (3) 建築基準法関連法規の火気使用設備の煙突等

※一定の条件を満たす排気筒の場合は、上記の基準が緩和されます。

【実際に多いペレットストーブの施工例】

COLUMN

実際にペレットストーブを設置する際は、窓の前方を避けた910mm四方内のモジュール（建築物を設計する際の基本単位）に納めるため、離隔距離が(2)よりも短いケースが多くなります。
(2)の離隔距離は輻射型の温風暖房機についての法規なので、距離が長く取られています。消防庁告示1号では、周囲の壁の表面温度が100°C以上にならない距離又は引火しない距離を確保すれば離隔距離が短縮できるとしており、これらを確認して設置しています。



ペレットストーブの施工例

薪ストーブの使い方とお手入れの仕方

ここでは共通事項や基本的な内容をご紹介します。ストーブを使う際は、メーカーごとの取扱説明書もよく読みましょう。

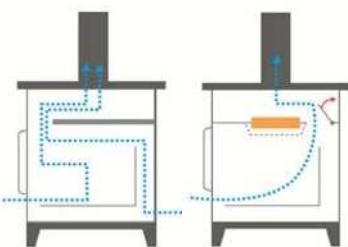
使い方

薪の選び方

十分に乾燥した薪を使いましょう（含水率は20%w.b.程度以下が望ましい）。乾燥の度合いは、含水率計や叩いた音（乾いた高い音がすればOK）、重さ・触感などで判断できます。また、化学処理されていない無垢の木材を使いましょう。建設廃材、農薬が付着した樹木、プラスチック、タイヤ、食べ物等は薪ストーブで燃やさないようにしましょう。

① 空気取入口を開ける

着火時は十分な空気が必要なので、空気取入口（一次、二次とも）を全開にします。触媒方式の場合はバイパスダンパーを開けます（燃焼ガスを触媒に通さない）。



② 着火

- 着火剤の上に焚き付け用の細薪、さらに中くらいの薪を数本のせ、着火剤に点火します。
- 煙突が冷えているとドラフトが弱くうまく燃えないでの、新聞紙を丸めたもの等を燃やしドラフトを立ち上げます。

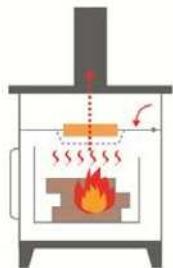


③ 燃焼の維持

- 燃焼が安定したら太い薪をくべます。
- (温度計がある場合)

温度を200～300°Cに保ちます。
300°Cを超えたら薪の投入をやめ空気量を絞りましょう。

- 触媒方式の場合はバイパスダンパーを閉め、触媒に燃焼ガスを導き二次燃焼させます。



④ 消火

薪の投入をやめ、燃えつきるのを待ちましょう（水をかけて消火するのは危険なので絶対にやらないこと）。

メンテナンス

炉内の掃除、除湿 シーズン前後

燃焼室の灰やすす、タールをブラシなどで取り除き、耐火レンガや火格子などの劣化があれば交換しましょう。通気を保つ、または吸湿剤を入れて湿気がこもらないようにしましょう。

ガスケットの点検・交換 シーズン前後

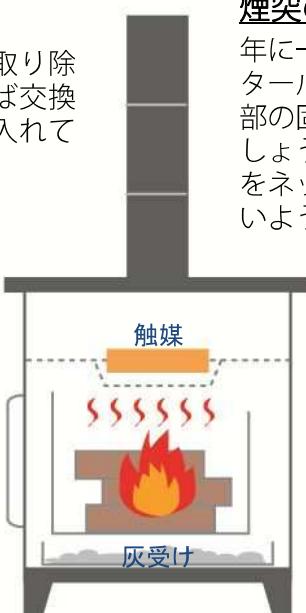
ガスケットは気密性を保つためのものです。
紙などを挟んで引抜き抵抗がなければ問題があります。
また硬化や毛羽立ちなどがあれば交換しましょう。



煙突の点検と掃除 シーズン前後

年に一度は必ず煙突内を点検し、すすやタールがあればブラシで除去します。接合部の固定や、損傷・劣化の有無も確認しましょう。シーズンオフの期間は煙突トップをネットなどで覆い、落ち葉や虫が入らないようにしましょう。

ドイツには「煙突掃除法」があり、ほとんどの家庭には年に一度、煙突清掃員が訪れ、詰まりや一酸化炭素の発生などの検査を行います。



触媒の交換

触媒方式の場合は、メーカー指定の時期に触媒を交換しましょう。

ドアガラスの清掃 日常

布とガラスクリーナーでふきましょう

灰受け皿の掃除 日常

灰受け皿が満杯になる前に掃除しましょう。

フルメンテナンス 3～5年に1度は専門家によるストーブ本体と煙突のフルメンテナンスを行いましょう

ペレットストーブの使い方とお手入れの仕方

使い方

ペレットの選び方

日本木質ペレット協会の「木質ペレット品質規格」または、ペレットクラブの「木質ペレット燃料に関するペレットクラブ自主規格（PC WPF-S-1:2011）」に準拠している、あるいは認証を受けているペレットが望ましいです。

また、ストーブの機種によって適合するペレットの種類が異なるので、メーカーや取扱会社に確認しましょう。



使い方

ペレットストーブは自動で着火や消火、温度調節ができる機種が多くなっています。

ペレットの保管方法

ペレットは長期間保管すると粉化しやすく、また、湿気の多い場所に保管すると水分を吸収します。このようなペレットはストーブのつまりの原因となります。ペレットはなるべく1シーズンで使いきりましょう。

メンテナンス

ペレットストーブを最適な状態で燃焼させるためには、空気の流れを確保することが大切です。空気の通り道が細くなると燃焼室が酸欠状態となり、本来の機能を発揮しないだけでなく、危険な事故にもつながるので、しっかりと掃除を行いましょう。

※ストーブの掃除は必ず電源プラグを抜いてから行って下さい。



熱交換部の掃除 定期的に

機種によっては、熱交換部にすすが付着するものがあるため、定期的に掃除しましょう。熱交換部にすすがたまると、暖房能力の低下につながります。

窓ガラスの拭き掃除 日常

炎を楽しむため、また、不完全燃焼していないかを目視するためにも、窓ガラスを拭きましょう。

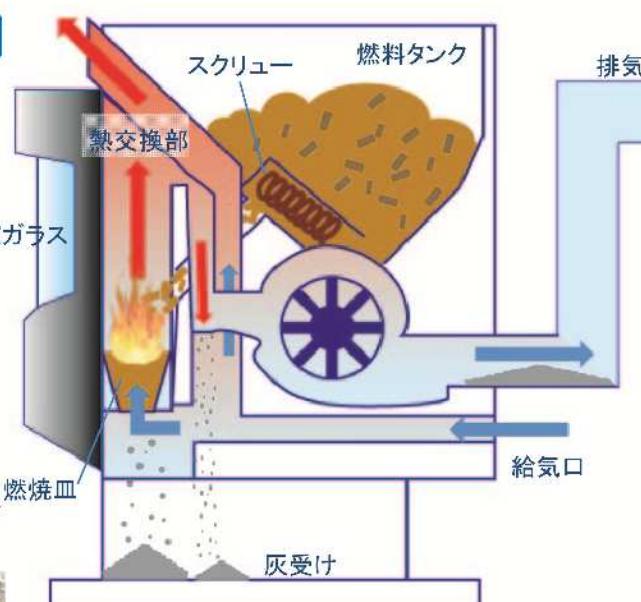
燃焼皿の掃除 日常

燃焼皿の灰は毎回着火前に捨てましょう。クリンカ^{*}が燃焼皿の空気穴を塞いでしまうと、不完全燃焼を起こし、炎が大きくなったり、排気の流れが悪くなつて燃料タンクが熱くなる危険があります。

※クリンカとは、灰が溶けて固まってできるガラス質の塊のこと



燃焼皿に溜まった
クリンカ



灰受けの掃除 日常

灰受けを掃除しましょう。



燃料タンクの掃除 定期的に

ペレットが崩れて粉になったものを取り除きましょう。粉状になったペレットは、燃料を送るスクリューのつまりの原因となります。



煙突（排気筒）の掃除
シーズンの前後で点検を行い、掃除しましょう。灰は、特に排気直後の曲がり角にたまりやすくなっています。シーズンオフの期間は入口をネットなどで覆い、落ち葉や虫が入らないようにしましょう。



薪ストーブの主なトラブルと原因

ストーブを製造、販売、設置している事業者や自治体へのアンケートで明らかになった、発生しやすいトラブルとその原因です。ストーブを使う際に注意しましょう。

発生しやすいトラブル

1 煙が逆流する



トラブルの原因は…

室内への空気の取り入れが確保されていなかった（特に換気扇使用時） 設置

煙突の設置方法が不適切だった 設置

煙突にすすやタールが詰まっていた 掃除

2 部屋が暖まらない



乾いていない薪を燃やした 燃料

ストーブの熱効率が悪い
ストーブの暖房能力が小さすぎる 機器

3 タールが発生する



乾いていない薪を燃やした 燃料

煙突の設置方法が不適切だった 設置

煙突にすすやタールが詰まっていた 掃除

4 火災になった
(なりかけた)



可燃物からの離隔距離が
不十分だった 設置

煙突の設置方法が不適切だった 設置

煙突にすすやタールが詰まっていた 掃除

乾いていない薪を燃やした 燃料

塗料やプラスチックの付いている
薪を燃やした 燃料

煙突が低すぎた、または煙突トップ
の近くに隣の家の窓等があった 設置

煙突にすすやタールが詰まっていた 掃除

5 煙や臭いで近所から
クレームがきた



アンケートは、平成23年度地球温暖化対策と大気汚染防止に資するコベネフィット技術等の評価検討業務において、平成24年2月に実施したもので、アンケートの詳細は木質バイオマス環境ガイドラインをご覧ください。

ご近所とのコミュニケーション不足が原因になる場合もあります

ペレットストーブの主なトラブルと原因

トラブル原因の分類と確認事項

燃料

燃料を確認しましょう
⇒P3・P7・P8参照

使い方

使い方を確認しましょう
⇒P7・P8参照

機器

販売店と相談し、機器の修理や見直しを検討しましょう ⇒P4参照

掃除

掃除方法を見直しましょう
⇒P7・P8参照

設置

設置方法について販売店に確認しましょう ⇒P5・P6参照

発生しやすいトラブル

煙が逆流する

※室内から空気を取り入れるタイプ
(FE式)の場合

部屋が暖まらない

着火しない

煙が多く出る (不完全燃焼)

ペレットが詰まって 出でこない

クリンカ※がたまる

※クリンカとは、灰が溶けて固まって
できるガラス質の塊のこと

トラブルの原因は…

室内への空気の取り入れが確保されていなかった(特に換気扇使用時) **設置**

煙突(排気筒)にすすやタールが詰まっていた **掃除**

ストーブの故障又は不良(排気負圧スイッチの誤作動など) **機器**

ストーブの故障又は不良
ストーブの熱効率が悪い
ストーブの暖房能力が小さすぎる **機器**

熱交換部にすすがたまっていた **掃除**

機器と適合しないペレットや水分量の多いペレットを使った **燃料**

ストーブの点火装置が故障していた **機器**

燃焼皿に灰がたまっていた **掃除**

燃焼皿や煙突(排気筒)に灰がたまって空気の流れが悪かった **掃除**

燃料送り量と空気量の調整が不適切だった **設置**

燃料タンクに粉状になったペレットがたまっていた **掃除**

粉状になりやすいペレットを使った **燃料**

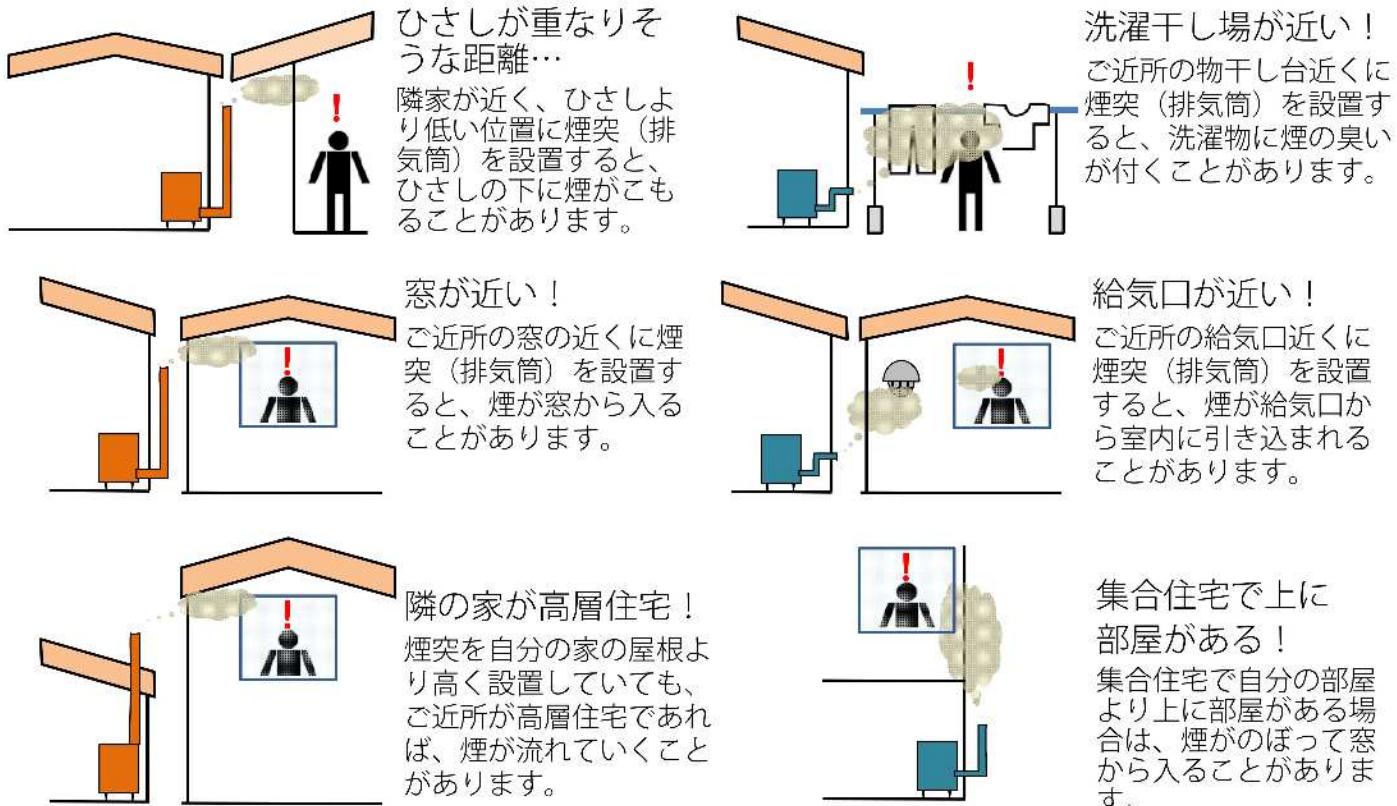
規格外のペレットや機器と適合しないペレットを使った **燃料**

燃焼皿をこまめに掃除しなかった **掃除**

さいごに

ご近所への配慮を忘れずに

次のような場合は、ご近所に迷惑になる可能性があります。ストーブと煙突の設置位置、煙突の高さを再検討してみましょう。



薪ストーブ・ペレットストーブの環境にやさしい使い方5か条

- 1 よく乾いた無垢の燃料を使いましょう
- 2 熱効率の高いストーブを選び、正しく設置して性能を発揮させましょう
- 3 可燃物からの離隔距離を守って、火事を起こさないよう注意しましょう
- 4 こまめに清掃し、シーズンオフには点検しましょう
- 5 ストーブの煙や臭いがご近所の迷惑にならないようにしましょう
煙突や排気筒の先端は窓や人から十分離して